

昨日（3月21日）は二十四節季の一つ、「春分」でした。暦の上の春は立春（2月4日）、雨水（2月19日）、啓蟄（3月6日）と過ぎて、すでに中盤に差し掛かっているはずなのですが、今年は雪や低温でなかなか春が進んでいるようには見えません。でも、足もとでは着実に春はやってきています。カントウタンポポも咲きはじめました。今回はそんな「小さな春」を見つけてみたいと思います。

開花への周到な準備～ロゼット葉

ロゼット葉とは、多年草や越年草の、冬の間も枯れずに残っている根生葉で、地面にぺたりとくっついて放射状に広がるものを言います。真上から見ると、葉の重なって広がるようすがバラの花（rose）を思わせるため、このように呼ばれています。ロゼット葉を持つのはナズナのなかま、マツヨイグサのなかま、オオバコのなかま、キク科の一部などです。もう間もなく、ロゼット葉の中心から茎が立ち上がってきます。そのためにたくさん日の光を浴びようとロゼットもだいぶ生き生きしてきました。ロゼット葉は、茎葉とはまた違ったカタチをしています。色合いもさまざまなので、じっくりと観察してみましょう。写真は上がロゼット葉（現在）で、下が花の咲いたようすです。



カントウタンポポ



メマツヨイグサ



ハルジオン

次回のお知らせ

ミ二観察会：4月26日（土）12時から
新聞 No.36 も観察会にあわせて発行します。